
Cherry Memories

らみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Cherry Memories

【NZード】

N9682M

【作者名】

らみ

【あらすじ】

少年は繰り返した。

何年も、また何年もと。

いや違う。

これは「一年」であった。

同じ一年を違うシークエンスで何度も繰り返していったに過ぎない。

それは果たして終結を見せるのか。

プロローグ 「『えられた記憶』（前書き）

これが初投稿になります。らみです。

どことなく暗め、シリアスめの学園ADVのような雰囲気を
醸し出していくればいいなと思って自作しました。

とにかくにも初めてですので、何も…。

希少にも読んでいただいた方々、

至らない点、アドバイス等よろしくお願ひします；

それでは、どうぞ。

プロローグ 「『えられた記憶』

「プロローグ」 「『えられた記憶』

「憶

びつしてだ。

どこで間違えたんだろう。
まわりは際限なく透き通った白い空間。
浮いているような、沈んでいるような。
何からも干涉を受けない。
そんな空間だ。

頭の中も然り。

記憶とこうべきものが全くない気がする。
気がする、といふことは「記憶が元々あつた」という事だけは覚
えているのだろうが。

ない 。まるで誰かから、何かから「『えられたような記憶』し
か。
基礎的な語彙や、知識だけが植えつけられているようだ。
一般に「思い出」とでも呼ぶべきものが一切備わっていない気がす
る。
自分の名前さえ教えられてはいないみたいだ。

ただひとつ。
特別に『えられてわかっている』ことがある。

俺は、死んだ後で、ここにいる。

それだけで。

いつ、なぜ、どうやって死んだのか。

生前の記憶は。

それらがわからないことが苛立たしいといったら、非常にいたたまれない。

どうにも不可思議な気分だ。

他でも、そうならない人などいないだろう。

人は一生を終えれば、跡形もなく消えるものだと思っていた。まさか、生前の記憶だけ抜き取られて未だ存在しようとは。

生きているわけじゃないのに、「存在」だなどと言えるのか
もわからないが。

とにかく、意識はある。思考力も。

もし、今この瞬間、全ての生前の記憶が戻ったとして。
だからって何になるんだろう。

こんな誰も、何もない空間にいたところで。

記憶なんていいくら持ち合わせていようがいまいが何にもならない。
そういう意味で最低限しか与えられていらないのかもしれない。
となると。

取るべき道は一つしかないことになる。

なぜだか、わかる。

次は「」ちらりの記憶がなくなること。も。またここに戻ってきてしまって「」そつなこと。も。それでも「」うしなければいけないってこと。も。

「さて、行くか」

嘆息まじりに小さく呟いた後、重くなる臉をそのまま素直に閉じて。

それまでの白い空間はいつしか闇に染まり記憶が一つ一つ抜き取られるのを感じ、やがてそれさえも感じなくなつて。

俺の全てが、深い闇に沈んでいった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9682m/>

Cherry Memories

2010年10月8日12時57分発行